

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500119
法人名	医療法人 かん養生クリニック
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	福岡県北九州市小倉南区蟻田若園3丁目4-9
自己評価作成日	平成23年8月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月21日	評価結果確定日	平成23年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、閑静な住宅街にあり近くには、川・公園があり落ち着いた環境に恵まれた場所に有ります。入居者様へは、無理の無い以前と変わらない生活が送れるよう一人一人の希望にあった活動やリハビリをとりいれています。入居者と職員は同じ場所で生活を営む家族と考え、少しでも身近に感じて頂けるよう接することをモットーにしています。又、隣接の「こもれび」と合同レクリエーションを楽しんだり、お互いが行き気出来、気分転換や楽しみを感じて頂ける様努めております。夜間対応として介護面の緊急対応の充実。医療面では、母体である医療法人かん養生クリニックといつでも連絡が取れるよう、24時間連絡体制にて対応しています。週1回、医師による体調管理も行い医療面からのサポートも充実しており、より良い生活が送れるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの両隣の敷地にはグループホーム「こもれび」と「デイサービスこもれび」があり、自由に行き来できる他、合同レクリエーションで運動会を開催したりと交流する機会を設けている。春秋に行なわれる合同祭りでは、職員総出で餅つき大会やバザーが開催され、地域の行事となりつつある。法人の代表者は内科・心療内科・精神科等の医師であり、「認知症」や「食べ物」「漢方」等について講義し、家族や地域住民、介護従事者の知識向上・啓発に取り組みされている。法人内での研修や会議も充実しており、法人が依頼した研修については勤務扱いとなったり、外部研修の研修費や交通費は福利厚生で対応する等、職員は様々な研修に参加しやすい環境が作られている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同で意見を出し合い作った地域見守りサービスの意義を踏まえた目標を理念とし、常に目の届くところに掲げ、実践にいかせるよう心掛けている。	開設当時の職員がキーワードを出し合い、話し合っって作った理念を継承している。職員は日々の業務で迷いが生じた場合は、理念を再確認し方向性を導きだしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や清掃活動の際挨拶を積極的にするよう心掛けている。又、地域で行われる行事への参加も心掛けている。	散歩時には近所の方と挨拶を交わし、時には庭に咲いている花を持たせてくれたり、苗を頂いたり、日常的な交流ができています。地域の夏祭りに参加し、春・秋祭りには近所の方を招いての餅つきやバザーを開催する等交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、実際のケアの様子を報告しホームで行うイベント等に参加していただくことで認知症の理解を得るようにしている。又、入所の検討をしている方の相談を受けるなどしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を添付し、実際の様子を報告し、現状を把握して頂けるよう努めている。談話形式ではあるも、貴重な意見と受け止め、職員ミーティング際伝えサービスの向上につながる様心掛けている。	隣接する同法人GHと合同で年6回、行事に合わせて運営推進会議を開催している。参加者は家族、利用者、包括職員であり、地域の代表者として町内会長が時々参加されている。地域からの参加が少ない状況である。	ご近所付き合いをしている協力的な地域の方にも目を向け、参加を呼び掛けてみる等、定期的な開催とともに、地域の理解と協力が深まる事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター主催のグループホーム交流会への参加。グループホーム協議会主催の行政との意見交換を通し、関係を築くようにしている。	年2回程、市職員を交えた会議で情報交換、意見交換している。相談や情報の確認等は、その都度市に問い合わせを行ない解決している。	
レ	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の指定基準における禁止の対象を十分理解し、ケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、運営推進会議にて検討を行う。御家族からは施錠してほしいとの訴えもあるも、午前中は開放することの納得を得て、実行している。	年1回は研修する機会を設け、職員の周知徹底を図っている。現在、転落・転倒予防の為に夜間のみサイドレール2本を使用している利用者に対して毎月のミーティングで必要性について話し合いをし検討している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム委員会とし、月に1回学ぶ機会を設けている。又、情報を交換することで、再度認識を深めている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方がおり、情報提供を行っている。又、グループホーム委員会の中で研修を行い学ぶ機会を設け職員の理解を深めている。	年1回は制度についての研修を開催している。北九州市が発行しているパンフレットを用いて勉強会を行ない、身近な制度として理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、十分時間をかけ納得して頂けよう努めている。又、入居後に疑問に感じた事についても、その都度納得して頂ける様努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族が意見・要望を言いやすいような関係作り及び、雰囲気を作るよう心掛けている。又入居時に公的な苦情相談窓口や御意見箱の利用について説明をしている。	年2回、ホームの行事に参加して頂いた家族と軽食を食べながら、職員や家族同士の交流を図る機会を設けている。職員は家族の面会時には声をかけ、ゆっくり何でも話せるような雰囲気作りを心がけている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二か月に一回法人で行われる責任者会議にて、職員の意見等管理者より提案する機会を設けている。又、定期的に法人より職員に意見を聞く機会を設けている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。また月2回は事務長や事務長代理が訪れ、直接職員と話す機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にスキルアップや目標を持ち外部研修の希望には、勤務の調整を行っている。又、福利厚生の一部として費用についても支援している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢・性別等制限は設けておらず、個々のやる気を重視している。職員がお互い重視し、得意分野が業務に生かされ、充実した勤務にあたるよう話し合いの場を作るなど心掛けている。	年齢制限は設けておらず、現在20歳から67歳が在籍している。定年は60歳だが、定年以降は1年毎の契約で更新している。無資格者の採用もしており、ヘルパー2級の受講支援を行なっている。職員の外部研修参加費や交通費等へのサポートも行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中に『個人個人を尊重し尊厳を守ります』と掲げている。理念の共有・実践により人権教育に繋げていくよう取り組んでいる。	法人全体で人権研修を年1回は実施している。毎月の会議においても、理念の下個人の人権を尊重するよう話し合っている。	

福岡県 グループホーム こもれば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時の研修については、経験等に合わせた期間や内容を変更している。内部研修として毎月グループホーム委員会とし学ぶ機会を設けている。外部研修へは、参加しやすいよう勤務日等配慮し、費用についても支援している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のグループホームの集いへの参加、又は、事業所間情報交流会へ参加し、向上するよう取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに、ご本人様とお会いし、要望や不安等情報収集を行うようにしている。お一人お一人に合わせ柔軟な支援に努め安心して入居できるよう取り組んでいる。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに、御家族より要望や不安等情報収集を行うよう努めている。ご本人の前で話づらい内容は、日を改めるか、電話で対応し、安心して入居が出来るよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の状況や現状のサービス内容・困っている問題等情報収集を行い、ご家族の了解を得て、居宅・医療関係者の意見を求め対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、コミュニケーションを大切に、洗濯・料理・食事を共に行い、趣味や特技を一緒に楽しんだり、教わることで支え合う関係につながるよう努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中で、の出来事の報告を行い、ご本人の為にどうしたら良いのか相談や意向を伺うよう努めている。又、行事等の参加を呼び掛け共に支えて行く関係につながるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際出来る限り馴染みのある物を持って来て頂いたり、馴染みの方が気軽に来所して頂ける様な場の提供が出来るよう努めている。	自宅に住んでいた時のお隣さんや、昔の職場の方が面会に来たりと、気軽に訪問してもらえるよう支援している。ホームの2階には家族等がいつでも宿泊できるようになっている。	

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	日頃の入居者の表情や関わり合いから、関係性の把握に努めている。必要に応じ、職員が会話の橋渡しをする等努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先へ面会・お見舞いへ行くこともあり、退所後も継続した関わりが保てるよう努めている。電話にて、現状の報告をして下さることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、御本人・御家族の思いや意向が、ホームの暮らしの中で反映されるよう、日々の会話や行動から把握し、職員間で共有できるよう努めている。	日々の会話の中で意向を聴取したり、入浴時等マンツーマンになった時に聴取したりと、環境や場面を変え利用者が表出しやすいよう工夫している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、事前に情報収集を行い、入居後も日々の会話の中から生活歴・生活環境の把握に努め、職員間で共有できるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や会話等で心身の状況の把握に努め、変化がみられた時は、申し送り、記録により職員全員が把握するよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・御家族の意向を大切に、ケアマネジメントを行い、月一回のミーティング・モニタリングを通し現状に即した介護計画になるよう努めている。	職員担当制とし、担当者が主に家族と面談や連絡をし意向の確認をしている。毎月、モニタリング実施し、職員意見を出し合い、ケアプランに反映させている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個別のケース記録に記入し、変化については業務日誌に記入し状況の把握・共有が出来るように努めている。必要があれば介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム こもれば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さまざまなニーズに対し、御家族とも相談しながら対応するよう努め、取り組んでいる。又、身体的状況の変化については母体より支援の応援により、多機能的に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる夏祭りに参加させて頂いたり、ボランティアの来所や、消防訓練に消防署の協力を得る事等で、社会との繋がりを持ち、地域に根付いた生活が出来るよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人より週に1回の往診にて健康管理を行っている。又、入居者・御家族の希望を大切にしながら、協力医療機関も含め適切な医療が医療が受けられるよう支援している。	母体医療法人は内科・精神神経科等の診療科目であり、週1回往診が行なわれている。整形外科や皮膚科等は家族や職員で受診介助を行ない、健康管理に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療法人より週に1日看護師が勤務しており、健康管理や状況把握を行っている。又、気づき等相談し指示を仰ぐ出来スムーズにスムーズに医療へ繋がるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、馴染みの物を病室より利用して頂けるよう配慮している。医療連携の看護師の協力も得て、早期退院に向け病院関係者との情報交換を密にしている。又、退院時には退院前カンファを得て、退院を迎えている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を示し、ご家族の同意を得ている。現在事例は無いが、ご家族の希望を把握するためアンケート調査を行っている。事業所として出来る事、出来ない事を把握し、主治医、ご家族との話し合いにて方針を共有する。	契約時に「終末期の看取りについて」の事前確認書を渡している。状況の変化に応じて、再度、ホームとして出来る事・出来ない事を説明し、家族の意向を確認している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、すぐに確認出来る所に貼ってある。又、急救救命の研修を行い、日常的に意識が持てるようにしている。		

福岡県 グループホーム こまれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回消防訓練を地域の方の参加も働きかけ実施。夜間を想定した訓練や地震を想定した訓練を行っている。	消防署立ち会いのもと、通報・消火・避難訓練を実施している。地域の方の参加を呼び掛けているが、参加協力は得られていない。	ホームは入り組んだ住宅街にあり、災害時には地域の協力・連携が必要不可欠です。今後の取り組みの中で、地域との協力体制が築かれていくことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重しプライバシーの保護には十分配慮し、状況に応じた声掛けや対応に努めている。	プライバシー保護について年1回は研修を実施している。会議でも事例の検討を行ない、職員の知識と意識の向上に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた声掛け、対応を心掛け、意思を尊重できるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の一日のスケジュールは設定してあるが、一人一人のペースに合わせ、可能な限り希望に添えるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を御本人の希望を優先し、一緒に選んだり、定期的に美容師さんに来所して頂き、カットだけでなくパーマやカラーも希望に添えるよう支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、後片付け等個々に合わせ、お手伝いをして頂いている。入居者と職員は同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。	食べたい物や好きな物など利用者の意向を聴取し、職員がメニューを作成している。ホームの畑ではトマト・きゅうり・じゃが芋等を収穫し、旬の野菜を食することができる。家族と一緒に外食に行く機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を記録し、管理を行っている。こまめな水分摂取を促し脱水等には十分気を付けている。又、嚥下障害のある入居者さんにはトロミを付け提供したり食事の形態を変える等し提供している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じ、介助の方法を代え行っている。又、必要に応じて、協力歯科へ往診を依頼している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターン・間隔の把握に努め、カンファ等で検討し、定期的な声掛け誘導を行いトイレ内環境を整備し、自立した排泄が出来るよう努めている。	入院時はテープ式紙オムツだった方が、退院してホームでの生活になり、トイレ誘導・介助を行ない、リハビリパンツに変更になった事例がある。利用者の状態にあった下着を選定している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、植物繊維や乳酸菌を多く含む食材の提供を心掛けている。又、散歩や体操の参加を促し自然排便を心掛けている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴の設定はしてあるも、可能な限り状況や希望に合わせて柔軟に対応している。個々に応じた入浴の支援を行っている。	隔日の入浴設定ではあるが、毎日入浴することも可能である。入浴拒否が強い時は、無理に勧めずタイミングを図りながら誘導し入浴を支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体操、散歩、レクリエーション、家事の手伝い等、無理にならないよう日昼活動をして頂き、夜間の安眠に繋がるよう努めている。又、生活習慣や体調により休息して頂くよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的、副作用等いつでも確認出来るようにしている。薬の変更があった時は、業務日誌に記入し変化の確認に努めている。特に眠薬については、体内動態を把握するよう努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に合わせ、家事の手伝いをして頂き、生活歴や趣味を生かせる生活・レクリエーションにて気分転換を図り、楽しみを感じて頂くよう支援している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その日の希望にそって、戸外へ出掛ける事は、難しく出来ていないが、御家族と協力しながら、普段行けない希望するところへ行けるよう努めている。</p>	<p>ホームの行事として花見に行ったり、買い物に行ったりしている。ショッピングモールに出かけ、アイスクリームを食べに行くこともある。少しずつ重度化していく中で、全体での外出行事の実施が難しくなっており、家族の協力も求めながら、外出、外気浴の機会づくりに取り組んでいく予定としている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お一人お一人の希望を大切に、御家族理解のもと所持しておられます。所持されていない方も、預かり金よりご本人様にお支払いをして頂く等の支援をしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される入居者さんは、ホームの電話を利用して頂き、御家族と連絡を取って頂いている。又、御家族へ年賀状を入居者さんよりお出ししている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには、天窓があり自然の光を採り入れ、明るい空間となっている。庭に咲いた花をテーブルに飾り、季節感を感じて頂くようにしている。又、対面式のキッチンからは料理する音やにおいが有り生活感を感じて頂いている。</p>	<p>リビングは明るく、共用空間は清掃が行き届いており清潔感がある。テレビの前にはソファが置いてあり、リビング横には和室がある等、自由にくつろげる空間が確保されている。和室には年代物のレコードとレコードプレーヤーが置いてあり、時には昔の音楽を流すこともある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを設置、畳みのスペースも有り、好きな所で過ごせるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ、安心して生活できるように、使い慣れた物を持って来て頂くよう御家族にお願いをしている。家具の配置等、ご本人・御家族と相談しながら、居心地良く過ごせるように努めている。</p>	<p>使い慣れた物、馴染みの物を持ってきて頂いている。写真や飾り付け、家具のレイアウト等、利用者の好きのように配置されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部にはバリアフリーになっており、歩行器・車椅子の方も安心して生活出来るようになっている。又、共同トイレには、可動式の手すりを設置している。</p>		